

# 西山博幸先生の論文 “Firm heterogeneity and location strategy of Japanese multinationals” へのコメント

日本国際経済学会 第3回関西支部研究会

(独) 経済産業研究所  
田中 鮎夢

2011年9月24日(土)

# 要約

1. 自国・北・南の3国モデル。
2. 自国企業が北と南にどこから財を供給するか分析。
  - ▶ 戦略1：南 南、南 北 「輸出基地型」
  - ▶ 戦略2：南 南、北 北 「水平（市場近接）型」
  - ▶ 戦略3：北 南、北 北 「疑似輸出基地型」
3. 理論的に、生産性と上記3つの戦略との関係を分析。
4. 実証結果「生産性順序：戦略1 < 戦略2 < 戦略3」

企業の異質性理論において、企業の国際化戦略は、

- ▶ 生産性と
- ▶ 限界費用 (MC) と固定費用 (FC) の程度

によって決まる (一般化 : Grossman et al., JIE, 2006)。

西山先生の論文は、基本モデルに以下の2点を追加した。

- ▶ MC : 南では「品質管理費用」がいる。
- ▶ FC : 仕向地毎に生産国固有の新規 FC がいる。
  - ▶ 一方、輸出の FC はいない。

## コメント：理論

1. FC : 「仕向地毎の FC を仮定すること」 = 「工場レベルの規模の経済が働かない」
  - ▶ 個々の市場への戦略を個別に決定しないのはどうして。
2. MC : 「品質管理費用」は、Keller and Yeaple (NBER WP, 2009) における「技術移転費用」と同種。
  - ▶ Keller, Wolfgang and Stephen R. Yeaple. 2009. "Gravity in the Weightless Economy," NBER Working Paper Series, No.15509.
3. 理論で自国（市場・生産拠点）が果たす役割がない。
  - ▶ 利潤式から落としてよいのでは。
  - ▶ 自国から輸出できない理由。北から南、南から北は輸出できるが...

## コメント：実証

1. 理論の戦略 3 と、実証の ADV only は本当に対応しているのか。
2. 労働生産性と企業規模を同時に説明変数に入れて、解釈してよいのか。
  - ▶  $l = f + \frac{q}{\varphi} = f + \frac{R\rho^\sigma(P\varphi)^{\sigma-1}}{w}$  and  $\sigma > 1$  in Melitz (EMA, 2003)
  - ▶ Yeaple (JIE, 2009)
3. “Pecking order”（1 地域のみ < 2 地域とも）との関係をどう理解するか。
  - ▶ Head and Ries (JJIE, 2003)

## コメント：実証（細かい点）

1. 産業ダミーの有無。定数項 = 「固定費用」(?)
2. 推定係数と限界効果は有意性が異なりうる。
  - ▶ 限界効果や相対的リスク比 (RRR) の計算が有益。
  - ▶ Buch and Lipponer (Journal of Banking & Finance, 2007), Aw and Lee (JIE, 2008)
3. IIA の仮定の検証。

# まとめ

- ▶ 興味深いテーマを理論・実証両面で探求。
- ▶ → 興味深い結果：生産性、研究開発集約度が高い企業ほど、先進国のみに子会社持つ傾向がある。